

## 令和 8 年度第 1 回行財政改革推進委員会 議事録(概要)

日 時 令和 8 年 8 月 27 日(木)14 時から 16 時 10 分

場 所 佐伯市役所本庁舎 6 階 大会議室

委 員 山田美之(会長) 宮崎正豊(副会長) 大石ゆかり 大畠美津子 川田菜穂子  
河野照代 神田芳 工藤伸仁 佐野真紀子 清家巧貴 林弥生 平井伸治  
平川昌寛 山口清一郎  
(全 15 名中14名)

職員等 富高市長、植田副市長、小石副市長、都留教育長  
末永総合政策部長、丸山総務部長、行財政改革推進検討部会員  
行政マネジメント課職員(事務局)

### 1 開 会

### 2 市長あいさつ

富高市長があいさつを述べた。

### 3 会長あいさつ

山田会長があいさつを述べた。

### 4 新任委員紹介

工藤委員があいさつを述べた。

### 5 報告

行政経営推進プラン(後期)の取組状況(令和 7 年度確定版)について【資料1】

令和 7 年度第 2 回行財政改革推進委員会で示した進捗状況について、3 月時点で未確定であった数値や変更箇所を中心に、事務局から報告を行った。

主な内容として、令和 8 年 4 月 1 日時点の職員数、選択と集中による予算編成の実績、市税等の収納対策の達成状況等について説明した。

### 6 議題

(1)職員数700人の組織体制構築に向けた基本方針について【資料2】【資料3】

将来的な人口減少及び職員数の減少を見据え、現在の振興局が担っている役割や、今後の地域行政のあり方について事務局から説明し、委員から意見を求めた。

事務局からは、現在の振興局が担っている役割を「市民の利便性」「エリア単位の地域管理」「地域に精通した職員の育成」の三つの視点で整理するとともに、行政だけで地域を支え

るのではなく、市民、地域団体、民間事業者、関係機関等がそれぞれの強みを生かし、地域全体を「面」で支えていく考え方を説明した。

### 主な意見

- ・ 郵便局や地域団体、民間事業者等との連携を進める場合、行政サービスとしての質をどのように確保するかを検討する必要がある。
- ・ 地域によって人口規模、既存組織の体制、民間事業者等の状況が異なるため、一律ではなく地域の実情に応じた仕組みを考える必要がある。
- ・ 新たな取組が住民の生活満足度の向上にどの程度つながったのか、効果を確認する仕組みも必要ではないか。
- ・ 地域に住む住民の満足度と、市全体としての持続可能性をどのように両立させるかという視点も重要である。
- ・ 地域団体等との連携だけでなく、広報や教育等を通じて、市が抱える課題を市民と共有し、市民一人一人の意識を高めていくことも必要である。
- ・ 「点から面へ」という表現について、職員数が減少するため行政の仕事を他の主体へ移すという意味に受け取られないよう、趣旨が伝わる表現を検討する必要がある。
- ・ DXや生成AI等については、導入状況だけでなく、職員の利用状況や業務効率化の効果等を把握し、今後の取組に反映してはどうか。
- ・ 将来、職員数が減少した場合に、どのような行政サービスに影響が生じる可能性があるのかを示すことで、今後の組織体制見直しの必要性が分かりやすくなるのではないかと。

事務局からは、職員数が減少した場合の具体的な業務への影響については、今後、本庁及び振興局の業務を分析し、DX等により効率化できるもの、人による対応が必要なもの、現場対応が必要なもの等を整理しながら検討を進めるとの説明があった。

また、「点から面へ」の考え方については、市の業務を単に他の主体へ移すものではなく、市、地域団体、関係機関等がそれぞれの強みを生かし、協力して地域を支えることを目指すものであるとの説明があった。

### (2)「点」から「面」への協働アイデアについて(ワークショップ形式)

議題(1)で示した基本的な考え方を踏まえ、地域が抱える課題に対し、市役所だけでなく、地域団体、民間事業者、学校、社会福祉協議会、デジタル技術等の強みを組み合わせることで、どのような解決策が考えられるかについて、4班に分かれて意見交換を行った。

#### 【A班】

- ・ 住み慣れた自宅で長く元気に暮らし続けるための「移動支援」と「ごみ出し支援」

をテーマに意見交換を行った。

- ・バス会社、スーパー、病院等が連携し、複数の住民をまとめて病院や店舗へ送迎する仕組みや、ごみ収集事業者が自宅付近までごみを回収する仕組みなどが提案された。
- ・また、市役所には、こうしたサービスを提供する事業者等の情報を集約し、市民へ周知する役割が考えられるとの意見があった。

#### 【B班】

- ・高齢化に伴う「移動・暮らしの支援」をテーマに意見交換を行った。
- ・コミュニティ協議会を中心に、社会福祉協議会や民間事業者等が連携し、宅配、見守り、買い物支援、通院支援、薬の受け取り等を組み合わせる仕組みが提案された。
- ・また、市役所には、事業全体の調整や活動への支援等の役割が求められるとの意見があった。

#### 【C班】

- ・デジタル技術を活用して生活全般を支えるとともに、人と人とのつながりを維持する仕組みについて意見交換を行った。
- ・オンライン診療、買い物、配送等をデジタルでつなぐ仕組みや、コミュニティセンター等を活用して、高齢者等がデジタルサービスを利用できるよう支援する取組が提案された。
- ・また、デジタル化を進める一方で、地域で人が集まり交流できる場を維持することも重要であるとの意見があった。

#### 【D班】

- ・住民の日常生活におけるちょっとした困りごとの解決と、地域の担い手づくりについて意見交換を行った。
- ・区長、民生委員、地域住民等が把握した困りごとについて、社会福祉協議会等が調整役となり、高校生等の若い世代とつなぐ仕組みが提案された。
- ・高校生等が、ごみ出し、家具の移動、話し相手などの日常生活支援に関わることで、世代間交流や地域課題への理解、防災時の支え合いにもつながるのではないかと意見があった。

#### 【ワークショップの総括】

各班の発表後、会長及び市長からワークショップ全体を通じた総括があった。

#### ○山田会長

各班から出された意見について、今後の佐伯市を考える上で力強い提案であり、今回のアイデアを「絵に描いた餅」にすることなく、実行につなげていくことが重要であるとの発言があった。また、今回で現委員の任期中最後の委員会となることから、今回までの議論や委員の思いを次期委員にも引き継いでほしいとの意見があった。

#### ○富高市長

各班から出された移動、買い物、ごみ出し、デジタル活用、高校生による地域活動などの提案について、一つ一つの意見を大切にし、できることから実行につなげていくことが重要であるとの発言があった。

また、人口や職員数が減少する中では、デジタル技術等を活用して効率化できる分野がある一方、消防・防災など、人による対応が必要な分野には必要な人員を配置していくことも重要であるとの考えが示された。

さらに、市民への意見聴取を通じて「人が温かい、人がやさしい」ということが佐伯市の強みとして挙げられていることに触れ、人口が減少してもこの強みを大切にし、人と人とのつながりを生かしたやさしいまちづくりにつなげていきたいとの発言があった。

### 7 その他

事務局から、今回示した基本的な考え方について、今後、市議会への説明等を行いながら検討を進めていくこと、また、現在の委員の任期が令和 8 年 9 月末で満了することから、今後、委員改選を予定していることについて説明を行った。